

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施 策	①沖縄固有の景観・風景・風土を重視した魅力的な景観形成
			施策の小項目名	○風景づくりの推進
主な取組	沖縄らしい風景づくり支援事業（景観行政の推進）		対応する成果指標	景観アセスメント数（累計）
施策の方向	・ 風景づくりの主体である市町村の景観行政団体への移行促進や地域住民が主導的役割を担う風景づくりの推進体制の構築を促進するとともに、市町村間連携による広域的な風景づくりに取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R7	R8	R9
シンポジウムを開催し、有識者による基調講演やパネルディスカッション等を通して風景づくりに関する県民の意識の向上や知識の普及を図る。	県,市町村	景観行政団体移行促進、景観計画策定等支援		
		景観まちづくりシンポジウム参加者数（累計）		
		200人	200人（400人）	200人（600人）
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課		【 098-866-2408 】	関連URL http://www.fukei-okinawa.jp

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名	沖縄らしい風景づくり支援事業			
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額	
一括交付金 （ソフト）	委託	57,363	60,090	
令和7年度活動内容				
県民の風景づくりに関する意識の向上を図ることを目的に、風景づくりに係るシンポジウムを開催した。				

(単位：千円)

予算事業名	沖縄らしい風景づくり支援事業		
R8年度			
主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 （ソフト）	委託	60,090	
令和8年度活動計画			
県民の風景づくりに関する意識の向上・普及啓発を図ることを目的に、風景づくりに係るシンポジウムを開催する。			

活動指標名	景観まちづくりシンポジウム参加者数（累計）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	—	—	532人	200人	100.0%	順調	

令和7年9月25日に、「沖縄らしい風景まちなみづくりシンポジウム」を開催し、インターネットでの配信も実施した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
シンポジウムの開催にあたっては、インターネットでのライブ配信およびアーカイブ配信も実施したことから、令和7年度のシンポジウム参加者目標値200名に対して実績値532名と目標値を達成できた。 風景づくりに関する県民の意識の向上や知識の普及が図れ、沖縄らしい風景づくりの推進に寄与する。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
○ 風景づくりに関する県民の意識の向上や知識の普及を図るために、情報発信の手法やシンポジウムのテーマおよびチラシデザイン等について風景づくり協議会等で検討する。	○ 7月開催の協議会でテーマやタイトル等について会員と意見交換を行った。意見交換の結果、テーマを一般県民に分かりやすく馴染みやすい言い回しへ変更したことや協議会会員どうして景観の普及啓発について考える機会となった。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	シンポジウムへの参加者が行政関係者約4割、土木建築関係が2割と毎年同様の参加者種別である。これまでに参加したことがない層への参加を促したいため、開催場所や開催方法を検討する必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	これまでに参加したことがない層への参加を促すため、開催場所や開催方法の変更を検討する。

様式 1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施 策	①沖縄固有の景観・風景・風土を重視した魅力的な景観形成
			施策の小項目名	○景観アセスメントの実施
主な取組	沖縄らしい風景づくり支援事業（公共事業における景観アセスメントの推進）		対応する成果指標	景観アセスメント数（累計）
施策の方向	・道路や沿道空間の緑化、無電柱化等に加え、都市部での公園・緑地等の配置など、景観地区の指定や景観アセスメントの実施も踏まえ、潤いのある公共空間の形成に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R7	R8	R9
良質な公共空間の創出を目的として、景観アセスメントを実施することにより、良好な景観形成を図り、沖縄らしい風景づくりに適正に反映する。	県	景観アセスメント（景観評価）システムの実施・改善		
		沖縄県景観評価委員会の開催回数（累計）		
		2回	2回（4回）	2回（6回）
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課【 098-866-2408 】		関連URL	https://www.pref.okinawa.jp/site/doboku/toshimono/keikan/keikanhyoukasytem.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名	沖縄らしい風景づくり支援事業			
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額	
一括交付金 （ソフト）	委託	57,363	60,090	
令和7年度活動内容				
13件の公共事業を対象に景観アセスメントとして景観評価システムの運用を実施し、沖縄県景観評価委員会を1回開催した。				

(単位：千円)

予算事業名	沖縄らしい風景づくり支援事業		
R8年度			
主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 （ソフト）	委託	60,090	
令和8年度活動計画			
15件の公共事業を対象に景観アセスメントとして景観評価システムの運用を実施し、沖縄県景観評価委員会を2回開催する。			

活動指標名	沖縄県景観評価委員会の開催回数（累計）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		「沖縄県景観検討の基本方針（H29本格運用版）」に基づき、13件の公共事業に対し景観アセスメントとして景観評価システムの運用を実施し、令和8年3月に沖縄県景観評価委員会を1回開催した。
	—	—	1回	2回	50.0%		

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
沖縄県景観評価委員会の開催数については、目標値2回に対して1回の開催となったことから、達成割合が50%となった。 要因としては、景観アセスメント（景観評価）対象となる公共事業の進捗の遅れにより、委員会の開催時期に遅れが生じたためである。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
○ 景観評価システムに係る実務的な研修等の実施に継続して取り組む。 ○ 景観評価システムの円滑な運用に向けて、引き続き、景観検討の前年度から事業課との連携強化を図る。 ○ 実務を通じて県事業担当者や県内コンサルタントの技術力向上を図るため、有識者を交えた景観アドバイス会議を開催する。	○ 景観評価システムに係る実務研修を令和7年10月に開催し、公共事業における景観評価の重要性について、景観有識者による講義、現地視察、意見討論会を行い景観技術の向上が図られた。 ○ 景観評価システムの円滑な運用に向けて、景観検討の前年度から事業課との意見交換を行い、予算確保や事業課題について情報共有による連携強化が図れた。 ○ 実務を通じて県事業担当者や県内コンサルタントの技術力向上を図るため、景観アセスメント対象の公共事業において、有識者を交えた景観アドバイス会議を合計5回開催した。

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	景観評価システムの目的や必要性について、実務研修会等を通じて組織内で共通認識が不十分であり、実務研修会等を今後も継続して実施することで、景観への意識と技術の向上を図る必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	景観評価システムの目的や必要性について、事例等の資料提供による周知に加え、効果的な実務研修会となるよう研修内容を改善し実施することで、景観評価への意識と技術の向上に努める。
⑦ その他内部要因（改善余地の検証等）	景観評価システムの円滑な運用について、対象となる公共事業の進捗遅れが課題であり、事業課題の情報共有と連携強化が必要である。また、景観評価委員会の開催時期等についても検討が必要である。	② 連携の強化・改善	景観評価システムの円滑な運用に向けて、事業スケジュールに注視すると共に、事業課題の共有および課題解決に向けた助言を行う。また、景観評価評価委員会の開催方法について改善検討を行う。
② 他の実施主体の状況（内部要因）	県内コンサルタントおよび行政担当者の経験および技術力不足が課題であり、景観評価システムを円滑に運用するためには、継続的な実務を通じた技術力向上の取り組みが必要である。	① 執行体制の改善	県内コンサルタントや県事業担当者の技術力向上を図るため、引き続き、公共事業への有識者を交えた景観アドバイス会議を開催すると共に、景観評価システムに係る実務的な研修等を実施する。

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施 策	①沖縄固有の景観・風景・風土を重視した魅力的な景観形成
			施策の小項目名	○風景・まちなみの再生を先導し専門的な知識を有する人材の育成等
主な取組	沖縄らしい風景づくり支援事業（景観形成に係る人材の育成）		対応する成果指標	景観アセスメント数（累計）
施策の方向	・ 沖縄らしい風景づくりや景観形成に向けて、風景・まちなみの再生を先導し専門的な知識を有する人材の育成や技術開発に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R7	R8	R9
沖縄らしい景観・風景を次世代に守り継ぎ、風景づくりに貢献できる人材を育成するため、地域住民を対象とした「風景づくりサポーターおよび地域景観リーダー」や景観行政担当職員を対象とした「景観行政コーディネーター」を育成する。	県	景観形成人材育成（地域人材及び専門家の育成）		
		講習会等参加者数（累計）		
		300人	300人（600人）	300人（900人）
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課 【 098-866-2408 】		関連URL	http://www.fukei-okinawa.jp

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名	沖縄らしい風景づくり支援事業			
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額	
一括交付金 （ソフト）	委託	57,363	60,090	

令和7年度活動内容

モデル的地区から4箇所の地域において、地域住民を対象とした地域人材の育成に取り組み、景観行政担当職員を対象とした研修会を実施した。

(単位：千円)

予算事業名	沖縄らしい風景づくり支援事業		
R8年度			
主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 （ソフト）	委託	60,090	

令和8年度活動計画

モデル的地区から4箇所以上の地域において、地域住民を対象とした地域人材の育成に取り組み、景観行政担当職員を対象とした研修会を実施する。

活動指標名	講習会等参加者数（累計）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	—	—	742人	300人	100.0%	順調	

4箇所において、地域住民を対象とした地域人材の育成に取り組むとともに、景観行政担当職員や民間企業を対象とした研修会を実施した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
地域住民の景観への関心を高めるため、地元市町村および4つの実施箇所と連携を図りながら各種研修や人材育成を実施し、参加者数は、目標値300人に対し742人と、目標値を達成した。 沖縄らしい景観・風景を次世代に守り継ぎ、「時間とともにその価値が高まる地域づくり」の促進に寄与した。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
○ 地域住民の景観への関心を高めるため、風景づくり協議会等でも時代に合わせた手法等を検討しながら、引き続き景観形成に向けた活動やワークショップ等を開催し、継続的に人材育成に取り組んでいく。 ○ 地域住民の景観への関心を高めるため、地元市町村および実施地区と連携を図りながら、地域景観協議会設立に向け引き続き取り組んでいく。	○ 地域住民の景観への関心を高めるため、地元市町村および実施地区と連携を図りながら、引き続き景観形成に向けた活動やワークショップ等を開催し、継続的に人材育成に取り組んだ。また、実際に地域で活かすことができる技術を学ぶために、「植栽剪定」に関する技術講座・技能研修に取り組んだ。 ○ 地域住民の景観への関心を高めるため、地元市町村および実施地区と連携を図りながら、地域景観協議会設立に向け引き続き取り組んだ。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	地域住民の関心を高めるために人材育成に取り組んでおり、地域の子どもの参加を増やすことが課題として出てきている。そのため、子どもが参加しやすいしくみを調査、検討する必要がある。	③ 他地域等事例を参考とした改善	地域の子どもたちの参加を増やすため、子どもが参加しやすいしくみやアピール等を検討しながら、引き続き景観形成に向けた活動やワークショップ等を開催し、継続的に人材育成に取り組んでいく。
① 県の制度、執行体制(内部要因)	景観行政担当職員対象の研修会への参加者数を増やすためには、開催日数や実践的なテーマ設定などを検討する必要がある。	① 執行体制の改善	景観行政担当職員対象の研修会への参加者数を増やすために、開催日数や実践的なテーマ設定などを検討する。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施 策	②世界遺産の環境整備と歴史的景観を活用したまちづくりの促進
			施策の小項目名	○地域の歴史・文化等の特性を生かしたまちづくり
主な取組	古民家の保全・継承に関する情報提供		対応する成果指標	歴史景観と調和する都市公園の供用面積
施策の方向	・古民家等の保全に向けた技術者の育成や資材の確保等により、古民家や御嶽・拝所・石垣・赤瓦など各地域の景観資源の保全等に努め、地域の歴史・文化等の特性を生かしたまちづくりに取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
建築関係技術者向けの講演会で、沖縄の伝統木造住宅(古民家)などについて講演し、古民家の再生・活用の普及・啓発する。	県	技術者育成支援事業での周知活動		
		講習会の開催回数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	土木建築部住宅課	【 098-866-2418 】	関連URL	—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

地域住宅施策推進事業

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

内閣府計上

委託

2, 148

2, 421

令和7年度活動内容

県内建築技術者の技術向上を目的として、技術者向け講習会・講演会を開催した。

予算事業名

地域住宅施策推進事業

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

内閣府計上

委託

3, 200

令和8年度活動計画

県内建築技術者の技術向上を目的として、技術者向け講習会・講演会を開催する。

活動指標名

講習会の開催回数（累計）

R5年度

R6年度

R7年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

①「沖縄の木造建築における継手・仕口」や「沖縄の住環境における湿害対策」をテーマとする技術講習会を開催した。
②県内の建築技術向上や建築人材獲得を目的とした建築講演会を開催した。

実績値

—

—

1回

1 回

100. 0%

順調

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

全体受講者は291人（来場者193人、Web受講98人）となり、多くの建築技術者（建築士、建設会社、学生など）が受講した。住宅建築に係る技術者講習会の開催の令和7年度実績は1回となり、目標値に達したことから、取組は順調と判断した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

若年技術者の受講者数増加を図るため引続き、建設業に加え、大学、工業高校、専修学校等の技術系学生に対し、幅広く講習会の周知を図っていく。

反映状況

建築士会による会員や関係機関への周知を行うとともに、工業高校や専修学校に個別訪問等を実施し、講習会の詳細な説明を行った。
昨年度と比較して年代別参加者では10代・20代の人数が増え、職業別においても建設会社・学生の人数が増加したことにより周知の効果があつた。

- 11 -

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 （改善余地の検証等）	WEB参加者や若年者の受講者数が増加していることから、当 日来場が難しい人や学生等に向けて受講しやすい環境づくり と周知活動の強化が必要となっている。	⑤ 情報発信等の強 化・改善	若年技術者を含めた幅広い世代に講習会の周知を図ってい くために、SNS等を活用し、更なる広報・周知を図っていく。 WEB参加者数が増加していることから、引き続き講習会当日の 同時配信を行う。

様式 1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施 策	②世界遺産の環境整備と歴史的景観を活用したまちづくりの促進
			施策の小項目名	○文化的な歴史遺産や風土等と調和し、自然と共生する憩いの場となる都市公園の整備
主な取組	都市公園における風景づくり事業		対応する成果指標	歴史景観と調和する都市公園の供用面積
施策の方向	・ 本県の文化的な歴史遺産や風土等と調和し、自然と共生する憩いの場となる都市公園の整備に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R7	R8	R9
沖縄らしい文化的な歴史資産、風土および自然と共生する憩いの場を創出するため、都市公園の整備を行う。	県	歴史景観と調和する都市公園の整備推進		
		中城公園、浦添大公園、首里城公園の供用面積（累計）		
		0.0ha	1.2ha（1.2ha）	5.6ha（6.8ha）
担当部課【連絡先】	土木建築部都市公園課	【 098-866-2035 】	関連URL	—

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況（Do）					
(1) 取組の進捗状況					
(単位：千円)					
予算事業名		国直轄			
主な財源		実施方法		R6年度 決算額	R7年度 決算見込額
国直轄		—			
令和7年度活動内容					
国は、国営沖縄記念公園首里城地区において火災により焼損した施設の復旧・復興に取り組んだ。					
予算事業名		公園費（社会資本交付金）			
主な財源		実施方法		R6年度 決算額	R7年度 決算見込額
内閣府計上		直接実施		1,182,629	483,873
令和7年度活動内容					
中城公園においては園路整備、用地取得等、浦添大公園においては園路整備等、首里城公園においては文化財調査等を行った。					
活動指標名		中城公園、浦添大公園、首里城公園の供用面積（累計）		R7年度	
実績値	R5年度	R6年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B
	—	—	0ha（39.1ha）	0.0ha	0.0%
進捗状況		活動概要			
順調		沖縄らしい文化的な歴史資産、風土および自然と共生する憩いの場を創出するため、中城公園においては園路整備、用地取得等、浦添大公園においては園路整備等、首里城公園においては文化財調査等を行った。			

予算事業名			国直轄		
R8年度					
主な財源		実施方法		当初予算額	
国直轄		—			
令和8年度活動計画					
国は、国営沖縄記念公園首里城地区において火災により焼損した施設の復旧・復興に取り組む。					
予算事業名		公園費（社会資本交付金）			
R8年度					
主な財源		実施方法		当初予算額	
内閣府計上		直接実施		904,484	
令和8年度活動計画					
中城公園においては園路整備等、首里城公園においては文化財調査等を行う。					

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
令和7年度は計画値0haに対して、実績値0haであったが、中城公園にて園路整備、用地取得等、浦添大公園にて園路整備等、首里城公園にて文化財調査等を行い、公園利用に供する施設整備に取り組んだため、進捗状況は「順調」と判定している。 なお、実績の累計値は、39.1haである。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和7年度の取組改善案	反映状況
○ 公園用地取得に向け、地権者等の同意が得られるよう粘り強く交渉を続けるとともに、市町村を通じて地元関係者等の協力を得ながら事業を推進する。 ○ 整備の効果が早期に発現できるよう部分的な供用開始に取り組む。 ○ 発掘調査を担当する関係機関と連絡調整を密に行い、文化財に対して適切な対応を図りながら、事業を推進していく。	○関係市町村と協議を行い、課題を共有し、地元関係者等の協力を得ながら、公園用地取得に向け、地権者等の同意が得られるよう用地交渉を行った。 ○部分的な供用が可能な区域の整備のため、当該区域の実施設計を行うなど、事業を進捗させた。 ○発掘調査については関係機関との連絡調整を密に行ったことで、計画通り調査が行われている。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	公園用地の取得に長時間を要することから、地権者等の同意が早期に得られるよう、市町村を通じて地元関係者等の協力を得ながら事業を推進する必要がある。	② 連携の強化・改善	引き続き公園用地取得に向け、地権者等の同意が得られるよう交渉を続けるとともに、市町村を通じて地元関係者等の協力を得ながら事業を推進する。
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	引き続き整備効果の早期発現に向けて、部分的な供用開始も含めた効率的かつ効果的な整備に努める必要がある。	④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	令和7年度までの進捗状況は順調であることから、引き続き整備効果の早期発現に向けて、部分的な供用開始に取り組む。
⑦ その他内部要因 (改善余地の検証等)	文化財発掘調査を並行しながら整備を進める箇所については、関係機関との連携が必要である。	② 連携の強化・改善	文化財発掘調査を担当する関係機関と連絡調整を密に行い、文化財に対して適切な対応を図りながら、事業を推進していく。

様式 1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施 策	③沖縄固有の景観資源の保全・継承
			施策の小項目名	○環境保全や景観に配慮した河川や海岸の整備
主な取組	自然環境に配慮した河川の整備		対応する成果指標	無電柱化整備総延長
施策の方向	・河川や海岸等の水辺環境においては、水と緑の貴重な空間や憩いの場としてのニーズが高まっていることに加え、景観を構成する重要な要素であることから、環境保全や景観に配慮した河川や海岸の整備に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R7	R8	R9
護岸に自然石を使用する等、環境・景観に配慮した多自然川づくりにより、河川の水辺環境の保全・再生を図る。	県	自然石等を用いた河川の整備		
		整備延長（累計）		
		0.3km	0.3km（0.6km）	0.3km（0.9km）
担当部課【連絡先】	土木建築部河川課		【 098-866-2404 】	関連URL —

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)						
(1) 取組の進捗状況						
(単位：千円)						
予算事業名				予算事業名		
沖縄振興公共投資交付金（河川）等				沖縄振興公共投資交付金（河川）等		
主な財源	実施方法	R6年度 決算額		R8年度		
		R7年度 決算見込額		主な財源	実施方法	
一括交付金 (ハード)	直接実施	2, 218, 000	1, 884, 000	一括交付金 (ハード)	直接実施	1, 561, 000
令和7年度活動内容				令和8年度活動計画		
自然石等を用いた河川護岸の整備や景観・環境に配慮した多自然川づくりにより、河川の水辺環境の保全・再生を図った。				自然石等を用いた河川護岸の整備や景観・環境に配慮した多自然川づくりにより、河川の水辺環境の保全・再生に取り組む。		
活動指標名	整備延長（累計）		R7年度			活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B	
	—	—	0. 19km	0. 3km	63. 3%	安里川ほか17河川において、環境・景観に配慮した多自然川づくりを推進するため、用地取得および護岸工事等を行った。
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果						
令和7年度の自然石等を用いた河川の整備延長は0. 19kmであり、目標0. 30kmに対して達成率63. 3%となったことから、進捗状況は「やや遅れ」となった。目標に届かなかった要因としては、河川拡幅に伴う橋梁の架け替え工事や用地の先行取得など中心に取り組んだためと考えられる。						
(2) これまでの改善案の反映状況						
令和7年度の取組改善案				反映状況		
○河川事業では、河川拡幅に伴い多くの橋梁の掛け替え等に期間を要することから、道路橋の占有者である関係市町村に事業スケジュールなど早めに協議し、事業の進捗を図る。 ○河川整備は、下流側から整備するという事業の特殊性から、事業効果をあげるためには計画的かつ難航事業早期解決などの用地取得を工夫する。				○現在架け替え工事中の橋梁に関しては、地元市町村の協力を得て順調に作業が進んでいるが、橋梁工事は比較的難易度が高いため多くの予算と時間を要している。 ○用地取得に関しては、比較的順調に進んでいる。		

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	米軍提供施設内を流れる河川も多く、施設内での調査や工事の手続きに時間を要することや米政府の閉鎖による影響も受けている。	⑧ その他	米軍提供施設と関連する事業に関しては、これまで以上に手続きを前倒しで行う。
⑦ その他内部要因(改善余地の検証等)	河川整備は、工事中も河川の水を止めることができず、安全対策や施工方法の制約も多いため比較的難易度の高い工事が多く、また、下流側から整備しなければならない特殊性から、整備に時間を要している。	② 連携の強化・改善	スムーズに河川整備に着手するため、今後掛け替えが予定されている橋梁に関しては、管理者である関係市町村との事前協議を先行して進める。

様式 1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施 策	③沖縄固有の景観資源の保全・継承
			施策の小項目名	○環境保全や景観に配慮した河川や海岸の整備
主な取組	自然環境に配慮した海岸の整備		対応する成果指標	無電柱化整備総延長
施策の方向	・河川や海岸等の水辺環境においては、水と緑の貴重な空間や憩いの場としてのニーズが高まっていることに加え、景観を構成する重要な要素であることから、環境保全や景観に配慮した河川や海岸の整備に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
自然環境に配慮しながら、地域の特性に応じた海岸保全施設を整備する。	県	自然環境に配慮し地域の特性に応じた海岸保全施設の整備		
		整備延長(累計)		
		0.2km	0.2km(0.4km)	0.2km(0.6km)
担当部課【連絡先】	土木建築部海岸防災課		【 098-866-2410 】	関連URL
				—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況

予算事業名	海岸メンテナンス事業費		
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額
内閣府計上	直接実施	113, 189	169, 096
令和7年度活動内容			
伊佐海岸等において、護岸工（L=約0.12km）等を実施し、自然環境に配慮し地域の特性に応じた海岸保全施設の整備に取り組んだ。			
予算事業名	港湾海岸メンテナンス事業費		
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額
内閣府計上	直接実施	71, 842	216, 943
令和7年度活動内容			
中城湾港海岸川田地区等において、護岸工（L=約0.2km）等を実施し、自然環境に配慮し地域の特性に応じた海岸保全施設の整備に取り組んだ。			

(単位：千円)

予算事業名	海岸メンテナンス事業費		
R8年度			
主な財源	実施方法	当初予算額	
内閣府計上	直接実施	150, 179	
令和8年度活動計画			
伊佐海岸等において、護岸工（L=約0.15km）等を実施し、自然環境に配慮し地域の特性に応じた海岸保全施設の整備に取り組む。			
予算事業名	港湾海岸メンテナンス事業費		
R8年度			
主な財源	実施方法	当初予算額	
内閣府計上	直接実施	199, 614	
令和8年度活動計画			
中城湾港海岸川田地区等において、護岸工（L=約0.05km）等を実施し、自然環境に配慮し地域の特性に応じた海岸保全施設の整備に取り組む。			

様式 1 （主な取組）

予算事業名		そのた海岸事業（海岸事業費等）			
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額		
		一括交付金 （ハード）	直接実施		
令和7年度活動内容					
塩屋港海岸等において、護岸工（L=約0.16km）等を実施し、自然環境に配慮し地域の特性に応じた海岸保全施設の整備に取り組んだ。					

予算事業名		そのた海岸事業（海岸事業費等）			
R8年度					
主な財源	実施方法	当初予算額			
一括交付金 （ハード）	直接実施	689, 450			
令和8年度活動計画					
塩屋港海岸等において、護岸工（L=約0.41km）等を実施し、自然環境に配慮し地域の特性に応じた海岸保全施設の整備に取り組む。					

活動指標名	整備延長（累計）		R7年度			進捗状況	活動概要
実績値	R5年度	R6年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	—	—	0.3km	0.2km	100.0%	順調	

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果							
令和7年度は補正予算も活用しながら、事業進捗を図り、目標値L=0.2km以上を達成したため、順調である							
(2)これまでの改善案の反映状況							
令和7年度の取組改善案				反映状況			
○ 建設業者の技術者不足が一つの要因となり、入札不調が生じていたことから、技術者が比較的確保しやすい時期（年度当初等）に工事等を契約できるよう発注計画を立てる。 ○ 本取組を実施する際は、引き続き、十分な施工計画等を検討したうえで、工事等を発注する。				工事の発注に際して、十分な施工計画等の検討を踏まえ、発注計画を立てることで、目標値を達成した。			

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 （改善余地の検証等）	引き続き、十分な施工計画等を検討したうえで、発注計画を立てる。	⑦ 取組の時期・対象 の改善	予算成立も踏まえ、十分なh施工計画とを検討し工事等の発注をする。

様式 1 （主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-イ	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	施 策	③沖縄固有の景観資源の保全・継承
			施策の小項目名	○無電柱化等の推進
主な取組	無電柱化推進事業		対応する成果指標	無電柱化整備総延長
施策の方向	・都市景観の向上については、防災面での機能も併せた電線共同溝による無電柱化等を推進し、良好な景観の創出に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
緊急輸送路や避難路確保の防災対策、安全で快適な通行空間の確保、都市景観の向上、観光振興を目的とし、電線類を地中化するため電線共同溝を整備する。	県	県管理道路における無電柱化の推進		
		県管理道路の無電柱化整備総延長(累計)		
		1.5km(83.8km)	1.5km(85.3km)	1.5km(86.8km)
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課		【 098-866-2665 】	関連URL
				—

様式 1（主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

無電柱化推進事業等(県)

主な財源

実施方法

R6年度
決算額

R7年度
決算見込額

一括交付金
(ハード)

直接実施

1, 097, 415

1, 016, 935

令和7年度活動内容

無電柱化を推進するため、県管理道路において電線共同溝
1. 9km整備した。

予算事業名

無電柱化推進事業等(県)

R8年度

主な財源

実施方法

当初予算額

一括交付金
(ハード)

直接実施

624, 500

令和8年度活動計画

無電柱化を推進するため、県管理道路において電線共同溝
1. 5km整備する。

活動指標名

県管理道路の無電柱化整備総延
長 (累計)

R7年度

R5年度

R6年度

実績値 (A)

目標値 (B)

達成割合
A/B

進捗状況

活動概要

実績値

—

—

1. 9km

1. 5km (83. 8km)

100. 0%

順調

県管理道路における無電柱化整備総延長につい
て、令和7年度は約1. 9kmを整備した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

県管理道路における無電柱化整備総延長について、整備目標1. 5kmに対し令和7年度実績は1. 9km整備（達成割合100%）したことから、順調と判定した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案

反映状況

○ 関係機関等と情報共有を図り、無電柱化の推進に連携して取り組む。

○ 施工方法や低コスト管路材の採用など、低コスト化の検討に取り組む。

○ 関係機関に対し事業進捗状況を適宜共有し、次年度以降の整備範囲を確認、見直し
依頼することで計画的な進行を図った。

○ また、既存設備を活用した施工など、低コスト化にも取り組んだ。

- 24 -

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑧ その他外部要因 （改善余地の検証等）	電線共同溝の整備にあたり、関係機関等との調整、電線管理者の配線計画を踏まえた電線共同溝の設計に時間を要する。	② 連携の強化・改善	関係機関等と情報共有を図り、無電柱化の推進に連携して取り組む。
④ 社会・経済情勢の変化 （外部環境の変化）	無電柱化の整備手法である電線共同溝方式の整備費用について、コスト削減策を検討する必要がある。	⑥ 変化に対応した取組の改善	施工方法や低コスト管路材の採用など、低コスト化の検討に取り組む。